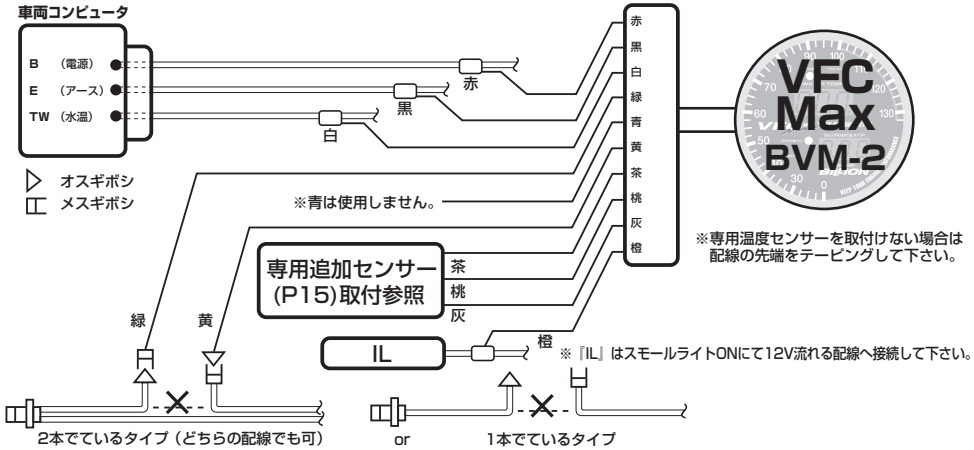
《取付方法》

1. エンジンを停止させ、車両ECUが見えるようにカバー・内装類を割れないように慎重に取外して下さい。
2. 別項の「車両ECU端子図」を参考に、下記の通りに配線取付を行って下さい。
3. 下記の車種に関しては、ファン作動速度設定がございませんので、使用しない「青」配線は先端に絶縁処理を行い、運転の妨げとならない場所へ束線バンド等で固定して下さい。
4. 取付が完了したら、「初期設定」を参照の上、操作・設定を行って下さい。
5. 専用追加センサーをご使用の場合は「専用追加センサー取付」をご参照の上、取付を行って下さい。

※追加センサーを装着しない場合は、サブ表示部に常時バッテリー電圧が表示されます。追加センサー未装着でも本体作動にはなんら支障はございません。

BVM-2
配線方法 8

TOYOTA	EP82(MTのみ) AE92 AE101 AE111 ST202,5,6 JZA70,80(~H9/9ターボ車のみ) JZX90(NA) JZX100(ターボ車) JZZ30(ターボ車) JZS147(NA) AW11(S/C)
MAZDA	FC3S(前期) DAJPF(フェスティバ) JCESE(コスモ)



【配線解説】

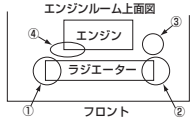
① 車両端子図のBの位置にスプライスを使用してVFC本体の赤線を接続します。
② 車両端子図のEの位置にスプライスを使用してVFC本体の黒線を接続します。
③ 車両端子図のTWの位置にスプライスを使用してVFC本体の白線を接続します。
④ 上図の通りに水温スイッチ配線をカットしてギボシでVFC本体の緑線を接続します。
⑤ 配線「青」は使用しません。
⑥ 上図の通りに④で接続した水温スイッチ配線の逆側にVFC本体の黄線を接続します。
⑦ VFC本体の橙線をオーディオ等のスモールライトONにて12V流れる配線へ接続します。
⑧ 追加センサー接続の場合は、「追加センサー取付」の項に従って取付を行います。
⑨ 以上で配線完了です。

1）下記図を参考に水温スイッチを確認して下さい。
2）水温スイッチは配線が1本出ているタイプと2本出ているタイプがあります。
⇒1本出ているタイプ → そのまま配線をカットしてください。
⇒2本出ているタイプ → どちらか1本の配線（どちらの配線でも可）をカット します。
※配線にギボシを付けることを考慮してカットしてください。
3）カットした配線のそれぞれにギボシを使用して配線してください。

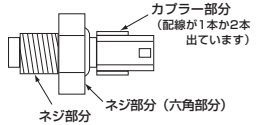
車 名	型 式	エンジン型式	年 式	位 置
カローラレビン／スプリンタートレノ MR2(S/C)	AE92	4AG	S62/05～H3/06	③
	AE101	/4AGZ	H3/06～H7/04	③
	AE111		H7/05～	③
	AW11			②
スターレット セリカ／カレン	EP82	4EF（T）	H1/12～H7/12	③
	ST202,6	3SG	～H9/11	①
	ST205	3SGT		①
スープラ	JZA70	1JZGT	H2/8～H5/4	②
	JZA80	2JZGT	H5/5～	②
マークⅡ／クレスタ／チェイサー	JZX90	1(2)JZGE	H4/10～H8/9	①
	JZX100	1JZGT	H8/9～	①
アリスト	JZS147	2JZGE	H3/10～H9/8	②
RX－7 コスモ フェスティバ	FC3S	13BT	S60/9～H1/3	④
	JCESE	20B	H2/2～	④
	DAJPF	BJ	H4/4～	③

◎水温スイッチの確認
水温スイッチはイグニッションキーをONにしてスイッチのカプラーを抜くと電動ファンが回ります。この方法にて水温スイッチを確認して下さい。

◎ 水温スイッチ取付け場所



◎水温スイッチの形状



①ラジエーターロアタンク(2Pカプラー/どちらか1本の配線を加工)
②ラジエーターロアタンク(2Pカプラー/どちらか1本の配線を加工)
③ラジエーターロアホースのエンジン側付け根、サーモスタットカバー付近にあるセンサー(1Pカプラー)
④サーモスタットケース上側（1Pカプラー）

【本体とハーネスの接続及び、固定】

- 配線が完了したら、接続、接触確認を行い、本体後方にカプラーを差し込んで下さい。
- 本体、配線は運転動作の妨げとならない様に両面テープ、タイラップ等にて固定して下さい。
  ※車内は異常に高温となる可能性があります。直射日光の当たる箇所に配置すると、本体の変色、および本体の破損の原因となります。
- 固定が完了したら、エンジンをかけて、本体の作動チェックを行って下さい。
- 正常に接続されている場合は、スタートデモンストレーションのあと、水温が表示されます。

「初期設定」の項に従って設定を行って下さい。
- 取付後、作動しない場合は、「トラブルシューティング」の項をご参照下さい。